

体育祭は自分たちが作る

校 長 武井 正明

昨日の午後、天気が回復しグラウンドで行った全校練習の最後。

普段は穏やかな富所生徒会長が、珍しく語気を強めて全校生徒に呼び掛けた。

「体育祭は、先生主体ではなくて、私たち生徒主体のものです。だから先生から注意が飛ぶのではなくて、自分たちの中から注意の声があるべきです。自分達から声を出していきましょう!!」…こんな内容だった。

素晴らしいじゃないか。それでこそ「西蒲の雄」吉田中学校 真和会会長だ。言いにくい事でも、リーダーが言わなくてはいけない時がある。その機をとらえた勇気ある言葉。

「苦言」とは、言われる方だけが苦しいのではない。言う方は、もっと苦しいのだ。

私は、彼の言葉を聞いて嬉しかった。言うべき立場の人物が、言うべき時を逃さず、言葉の力で、誠実に全校生徒の心に訴え掛ける。大人の私の方が勉強になった。場の空気も、ピリッと引き締まった気がする。

そして今朝は、去年は雨でできなかった PTA 環境整備の泥上げ作業があった。

貴重な休日の朝を 30 人以上の保護者の方々が集まってくださった。

早速作業に入る。

作業をしながら、子どもたちのことも話題に出る。

「毎日、中学校生活を満喫しています」

こんなありがたく、嬉しい言葉はない。

やっぱり「数は力」だ。次々と土嚢が積まれていく。周囲の作業の進みにつられて、一輪車のスピードも若干速くなる。疲れるが、目に見えて成果がわかる仕事というのは気持ちがいいものだ。

1 時間弱の作業であったが、数多くの土嚢がテニスコート脇に山積みになった。

これですっきりとした気持ちで体育祭を迎える事ができる。



きれいに整ったグラウンドに、あの 3 枚のパネルが映える。きっと溜息が出るぞ。

それを見るのが、今から楽しみだ。

作業に参加してくださった皆様、本当にありがとうございました!!

体育祭当日は、吉中生が、必ずや最高の一日にしてくれると思います。期待してご来場ください。